

報告第 1 号

可見市地域公共交通計画の策定にかかる

基礎調査の結果について（中間報告）

可児市地域公共交通計画へのアップデート

地域公共交通計画

地域公共交通計画は、「地域にとって望ましい地域旅客運送サービスの姿」を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすもの。

⇒ 地域交通は、人々の社会的な営みを支える基盤であり、福祉・観光・まちづくりなど幅広い分野での連携が求められる。
そうしたことを踏まえ、利便性・生産性・持続性を向上させながら、地域交通の目指す姿を示し、その実現に向けた道筋を示すもの。



「住みごこち一番・可児 ～すこやかに、にぎやかに、おだやかに暮らせるまち～」の実現に向けた、公共交通ネットワークの整備

市内の地域交通手段による役割分担

各輸送モード	役割内容
鉄道（JRや名鉄） 東鉄高速バス	名古屋や岐阜など都市部をつなぐ公共交通軸。
コミュニティバス （さつきバス、電話で予約バス） 東鉄路線バス	上記の起点となる鉄道駅へアクセスするため、また、市内での移動ニーズに対応するための交通手段。
一般タクシー	多様な個別移動ニーズに合わせて、ドア・ツー・ドアで輸送。
福祉有償運送	要介護者や要支援者など公共交通での移動が困難が人に対する輸送サービス。
ボランティア運送	地域の特性に合わせて、地域住民の互助による移動サービス。

R8.2月末で終了
(可児市シルバー
人材センター)

基礎調査の概要

- 可児市の地域概況や公共交通サービスの整理
 - ・可児市の現況の把握、上位関連計画との整理
 - ・公共交通のサービス水準や利用状況等の整理
 - ・現計画の事業評価の事前調査、課題の整理

- 各種調査
 - ・人流データの把握・分析による市民等の移動の流れの把握
 - ・乗降データによるバス利用状況の分析
 - ・バスロケーションシステムによる運行状況の分析
 - ・ワークショップや乗り方講座等による市民意見の聴取・集約
 - ・交通事業者へのヒアリング
 - ・各種団体へのヒアリング

計画策定にかかる基礎調査①

さつきバスに関するワークショップ

1. 目的

さまざまな関係者が参加し、実車を踏まえた、さつきバスの現状や課題、改善案等を協議。

2. 参加者

可児市地域公共交通協議会委員、可児市職員、可児市議会議員、地域住民、岐阜大学大学院生等の24人（グループワークは、全5グループに分かれ、1グループ4～5人。）

3. 実施内容（全2回）

（1回目 = 9/27 @文化創造センター・アーラ）

- ・可児市の現況とコミュニティバスについて市より説明
- ・グループワークでさつきバスでの「地域ツアー」の企画

（2回目 = 11/8 @子育て健康プラザ・マーノ）

- ・全5グループが、さつきバスで目的地へお出掛け（明智城跡やぎふWRG、ヨシヅヤ可児店・カニミライブ図書館等）
- ・実際に乗ってみて気付いたことや意見等をグループワーク及び全体で共有

計画策定にかかる基礎調査①

さつきバスに関するワークショップ

4. 今後に向けて

計画の策定に活用していくとともに、取りまとめた意見や提案を参考に、使いやすいさつきバスへ改善していく。

【グループワークで出た主な意見】

- ・ 車内で可児市のPRをしたり、分かりやすい表示にしたりするなどの車内環境を整備。
- ・ バス停の看板表示や、バス停の時刻表表示を大きく分かりやすくする。
- ・ キャッシュレス対応することで、利便性の向上はもちろん、バスの遅れの原因となる両替対応などが少なくなる。



さつきバスでの地域ツアーの様子



全体で発表する岐阜大学院生

計画策定にかかる基礎調査②

地域での乗り方講座による意見聴取

1. 目的

主な利用者である高齢者を対象に、市の生涯学習講座「楽・学講座」や高齢者サロンでの乗り方講座を実施し、バスの認知度向上及び利用促進を図るとともに、地域での移動に関する実態や困り事を調査。

2. 実施結果

延べ9回 約250人が参加。

3. 今後に向けて

実際の利用者や今後利用したい人からのニーズとして、使いやすいコミュニティバスへの改善につなげていく。

【乗り方講座での主な意見】

- ・ 行きの案内はしてもらえるが、帰りの案内もセットで案内してほしい。ただし、行き帰りで使える環境でないとそもそも使えない。
- ・ 「電話で予約バス」の予約時には、とても親切に対応していただき、特に女性運転手をはじめ運転手さんも対応がよい。

計画策定にかかる基礎調査③

交通事業者ヒアリング調査

1. 目的

可児市の公共交通に係る現状と今後の課題を整理するため、市内の交通事業者を対象に、コミュニティバス等の安全な運行を確保する上での問題点や、利便性の高い運行を目指しての改善事項等について、ヒアリング調査を実施。

2. 実施事業者

東濃鉄道株式会社、可児タクシー株式会社

3. 調査項目

- ・ コミュニティバスの運行について（問題点や改善点）
- ・ 自社路線のバス事業やタクシー事業について
- ・ 利用者等からの意見について
- ・ 利用促進の取り組みについて
- ・ 担い手の確保について
- ・ バリアフリーの取り組みについて
- ・ その他意見等



計画策定にかかる基礎調査③

交通事業者ヒアリング調査

4. 実施結果（各調査項目による主な回答）

【さつきバス】

- ・渋滞箇所が多く、ダイヤと実際の通過時刻に差が大きい時間帯がある。
- ・行先案内表示の変更。
- ・高校への乗り入れによる、高校生利用者の利用促進
- ・乗継券は、廃止した方がよい。

【電話で予約バス】

- ・利用客が多い時間帯には増便での対応。
- ・コースが長い場合には、分けて対応するなど、多くの方が使えるよう柔軟に対応。

【東鉄路線バス】

- ・利用者の減少及び運転手不足により、赤字路線の維持が困難。

【タクシー】

- ・平日休日の昼間は、概ね供給できている状態だが、西可児地区での稼働台数が少ない場合や、夜間帯（18:00～6:00）は、需要に対して供給が間に合っていない状況。
（特に週末の夕方、終電前後や深夜早朝帯）

参考) 中間評価による調査結果 (令和5年度実施)

市民アンケート・利用者アンケート

- ・ 中間評価によるアンケート結果から、「公共交通に関する満足度」の割合が、計画策定時（H29年度）と比較し、年代別では、どの年代も「不満度」の割合が高くなっている。また地区別では、路線バスが減便となっている帷子地区をはじめ、「不満度」が大きく増加していた。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による外出自粛や、生活様式の変化により、直近1年間に公共交通を利用した人の割合が低下した。特に「年に数回程度」や「月に1回程度」等のライトユーザーの割合が減少した。
- ・ さつきバスに関しては、運行本数、運行時間帯、運行ルートに対して多くの要望があった。また、乗継の情報が分かりにくく、「乗継」に関する満足度が低かった。
- ・ 電話で予約バスに関しては、利用者アンケートからは満足度が高い一方で、周知不足が課題として挙げられた。

今後に向けて

各種調査を踏まえて、公共交通網の整備及び計画策定に取り組む。

➤ 可児市地域公共交通計画策定（令和9年3月予定）

- ・ 持続可能な公共交通網を実現するための計画を策定する。
- ・ 高齢化に伴い、年々高まるバスニーズに応じていく（市民や議会からの要望）。
- ・ 主な利用者である高齢者の移動需要に応える。
- ・ 可児市への来訪者が、可児市の地域資源である場所や施設へのアクセスを確保する。
- ・ 名鉄広見線の活性化に向けた取り組みを行うため、駅へのアクセス強化を図る。